ハマトビウオ都 TAC 更新のための ABC 算出研究

【研究概要】

ハマトビウオ漁業の次年度 TAC 策定に必要な ABC（生物学的許容漁獲量）を算出するとともに、資源解析精度の向上を図る。また、ハマトビウオの回遊経路など、資源管理の高度化に必要な生物学的特性を明らかにする。

① 令和 7 年漁期のハマトビウオ水揚量は、八丈島で 0.5 万尾、三宅島で 0.04 万尾、神津島で 0.1 万尾の計 0.6 万尾であった。屋久島における漁獲量は 2.7 万尾であった。

② 屋久島（鹿児島県）のハマトビウオ 231 尾の精密測定を実施し、尾叉長組成、雌雄組成、成熟度を把握した。漁期を通じて尾叉長モードは 34～35cm となった。雌魚出現率は漁期全体で 3.4%となった。八丈島で漁獲されたハマトビウオ 72 尾を精密測定し、水揚げ時に 422 尾のパンチング測定を行った。4 月と 6 月に計 2 回のリングネット調査を実施し、ハマトビウオ仔魚を計 4 尾採取した。

③ 資源量指標値の算出に標準化による CPUE を用い、令和 8 年漁期における ABC Limit を 1.2 万尾、資源変動の可能性やデータ誤差に起因する評価の不確実性を考慮した ABCTarget は 1.0 万尾と算定された。

④ 上記結果に基づき、資源評価票を作成した。